

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

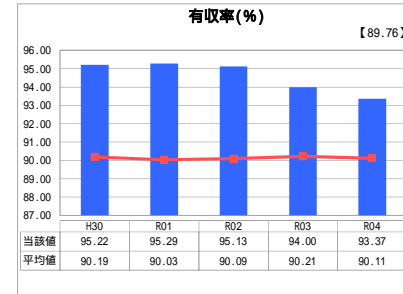
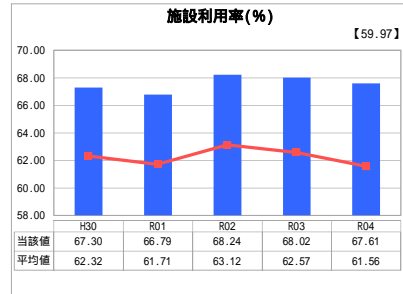
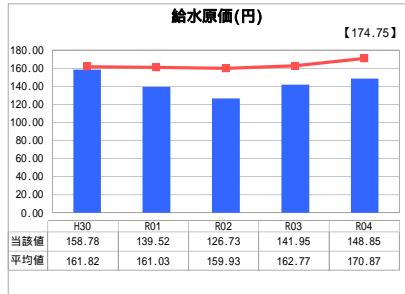
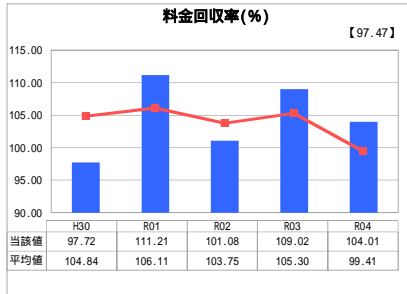
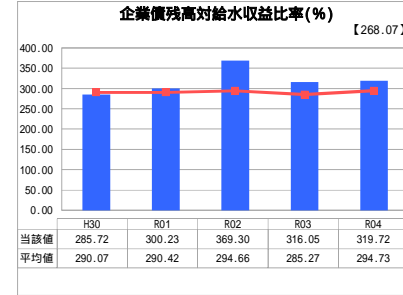
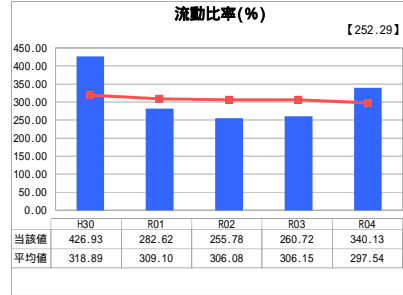
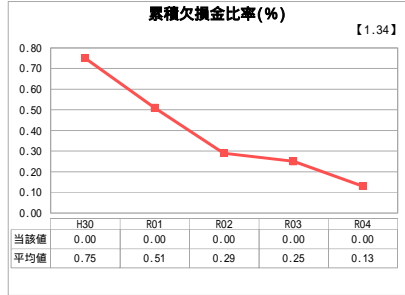
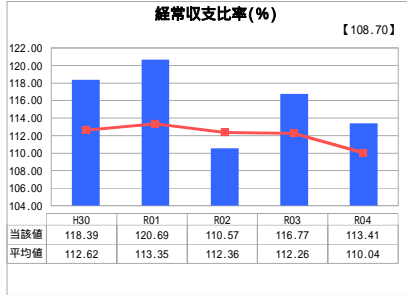
兵庫県 加古川市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	66.65	97.03	2,486	

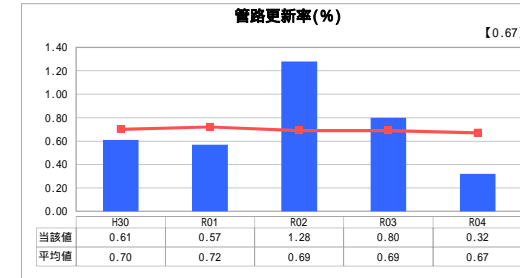
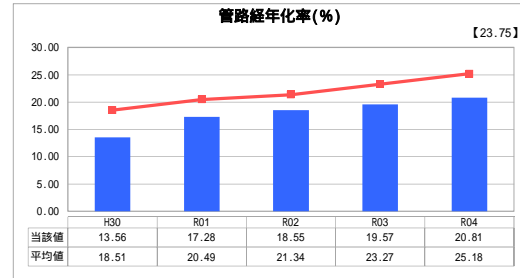
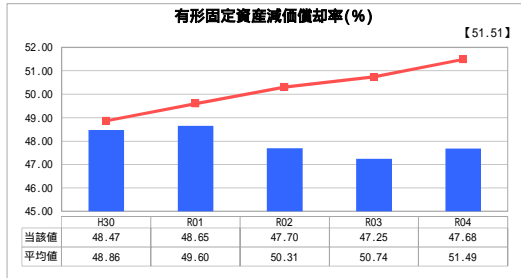
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
259,884	138.48	1,876.69
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
251,581	116.83	2,153.39

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・ 経常収支比率  
物価上昇等による費用が増加したため、前年度と比べ数値は悪化している。
- ・ 流動比率  
令和4年度は未払金が少ないため前年度と比べ数値は改善している(未払金相当の現金も減少しているが割合として上昇している)。
- ・ 企業債残高対給水収益比率  
全国・類似平均を上回っており、今後も、施設の更新需要の増大等に伴う企業債発行額の増加及び給水収益の減少により数値が悪化することが懸念される。
- ・ 料金回収率、給水原価  
物価上昇及び施設の更新工事に伴う減価償却費の増加に加え有収水量が減少したことにより給水原価が悪化した。これに伴い料金回収率も悪化している。
- ・ 施設利用率  
1日平均給水量が微減したことから2年連続悪化している。今後は水需要(給水量)は減少していくことが予想されることから最適な施設規模や効率的な施設利用を考えていく必要がある。
- ・ 有収率  
漏水調査を積極的に取り組んでいることから、全国平均・類似団体平均と比べ高い水準を保っているものの、悪化傾向にある。引き続き漏水調査を積極的に行い、今後も高い水準を維持していく。

### 2. 老朽化の状況について

- ・ 有形固定資産減価償却率  
事業の進捗により年度間で差があるものの、施設等の老朽化が進み減価償却が進む傾向にあり、全国・類似平均の動向と同じく悪化していくことが予想される。
- ・ 管路経年化率  
全国・類似平均の動向と同じく更新を進めているものの耐用年数に達する管路が増加しており、悪化している。
- ・ 管路更新率  
令和4年度は複数年度にわたる工事が施工中であることが影響し、完成工事量の関係により悪化した。事業の進捗により年度間で差があるものの、今後も「老朽管更新(耐震化)計画」に基づき事業費の平準化を図りつつ管路更新を行っていく。

### 全体総括

令和4年度も引き続き、経営の健全性・効率性を示す指標については、概ね全国平均・類似団体平均より良好な数値となっている。

しかし、水需要が減少傾向にあり、今後、収益が減少していくことが懸念されるときも、老朽化の状況を示す数値についても、事業の進捗により年度間で差があるものの、管路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。

このような中、平成30年度に策定した中長期的な財政計画である「アセットマネジメント」及び加古川市の水道事業の基本方針である「加古川市水道ビジョン2028」等に基づき、将来の水需要を踏まえた中長期的な視点での施設の計画的な更新と更新費用の平準化を行い、持続可能な水道事業の経営となるよう努めていく。